あゆみ20年

福岡支部創設20周年記念誌

福岡県立嘉穂高等女学校
福岡県立嘉穂東高等学校
同窓会

目次contents

ごあいさつ	3	福岡支部支部長　角田　和之
お祝いの言葉	4	本校同窓会会長　日高　武邦
	5	東京支部支部長　佐藤　末松
	6	関西支部支部長　田中　良一
	7	第30代校長　花田　正
20周年の歩み	8	座　談　会
思い出話	12	越智　秀則
写真で見る支部20年	13	
福岡支部歴代役員名・歴代総会及び講演者名	18	
寄　稿	20	伊藤　嘉孝
		小幡　和利
		安藤　健一
		坂口　隆義
		太田　克彦
		田代　勝
		浦田　政人
幹事便り	28	角田ハヤ子　藤島　澄子　大原　康子
		八尋　弓夫　林　和子　永末　輝幸
		角田　和之　太田　克彦　田中　嘉則
		森　勝輝　兒嶋　佳苗　山内真紀子
		小川　民夫　本田　博文　野見山武典
		池田　浩道　姫野　武司　延原　陽子
一言メッセージ	39	支部会員他
あとがき	40	

※表紙題字　高女31回生　角田 ハヤ子

福岡支部 支部長
角　田　和　之

20歳になりました

福岡支部同窓会が御陰様で20周年を迎えることが出来たのは設立にあたった発起人（安藤・石﨑・池松・井出・合屋など・・・敬称略）の方々、歴代支部長（石﨑・越智・坂口）や役員と会員の皆様方の結束のたまものと思います。

20年の歴史は皆様方の御苦労や熱意・努力・忍耐が集結した結果によると思います。

この支部同窓会の運営は最初発起人の方々の手出しから始まったと伺っています。その後年会費を軸として、総会時の参加費や広告代や寄付によって、現在まで何とか赤字を出さずに自主運営をしているのが現状であります。

本校同窓会規約で支部組織が認められている以上は、本校同窓会から各支部の運営のために予算を少しでも計上して頂ける様に、ご高配をお願いする次第です。

毎年６月に開催される支部総会は先輩・後輩を交えた同窓会であります。この総会で先生・役員と初めて出会い・知り合うことはまさに“一期一会”であります。

同期会ではこのような経験をすることが出来ないので、この同窓会の出会いが人生の豊かさや楽しさを倍加してくれることと思います。支部総会は皆様の皆様方のための同窓会です。ぜひ奮って出席されんことを切望致します。

また、支部総会の特徴は当初から講演会を企画してきたことです。同窓の講演者に、時宜を得たテーマで話をして頂いております。皆様方にとって何か得ることがきっとあると確信しています。

これからも10年・20年と、この支部が歴史を重ねて発展していくように努力して頑張るつもりでいますが、そのためには若い力や本校同窓会から各支部へのご支援・ご協力が欠かせません。よろしく御願い致します。

青梅雨や
笑顔に会へる
うれしさよ

20周年のあゆみ 座談会

◆出席者

角田ハヤ子（高女31回生）　藤島　澄子（高校３回生）
石﨑　憲司（高校４回生）　安藤　健一（高校５回生）
角田　和之（高校10回生）　田中　嘉則（高校12回生）
坂口　隆義（高校13回生）　田代　　勝（高校15回生）
兒嶋　佳苗（高校18回生）　岩佐　　守（高校19回生）
山内真紀子（高校19回生）

◆司　会　　浦田　政人（高校19回生）

司会（浦田）　福岡支部創設20周年に向けて記念誌を作成いたします。そこで、支部創設の経緯や今後ますます発展するにはどうしたら良いかというアドバイスも含めてお話ししていただきたいと思います。19年間の在り方を記録に残し、次の発展に向けるためのいい記念誌にしたいと思っております。まずは創設の経緯を石﨑さんと安藤さんからお話ししてください。

石﨑　福岡市とその周辺に同窓生が非常に多く、当時、同窓会名簿のうえでは2,303人いました。それだけ同窓生が多いのならば、わいわい自由に集まれる会を開こう、というのが最初の動機でした。私も西日本新聞の本社に帰ってきたし、安藤君も五洋建設福岡支店次長だった。そこで集まれる人だけでもいいから集まって母校のことや飯塚のことを話そう、まぁ、一種の人恋しさから始まったようなものです。1994年10月１日に国際ホールで第１回総会を開きました。

田中　第１回のお世話役はどなたがなさったのでしょうか。

安藤　特に世話役というのはありませんでした。松岡さんから福岡支部を作らないかん、安藤お前がやらないかんと言われました。嘉穂東の名簿があったので、最初は名簿から拾いました。私は建設関係にいましたので、まず麻生産業にいる人や学校の先生になっている卒業生に当たりをつけていきました。妹と同期生、11回卒の池松英雄君に話して事務局長になってもらいました。

藤島　私は最初に石﨑さんから話しがありました。私の時代は女子高で、その名簿はあったので女子に関しては一発で招集できました。23人くらい集まりました。

田中　事務局長が池松さん、支部長が石﨑さん、会計は合屋拓一君で高城君や井出俊男君など12回生も頑張りました。

坂口　私は同じ新聞社にいましたので、石﨑さんから声を掛けられました。

石﨑　意外なところに同窓生がいて、これならいけるぞ、という自信がありました。

角田ハ　私はこちらに嫁いで来ていましたので、２期上の先輩から声が掛かりました。

藤島　何しろ支部の始まりは私が還暦の年でしたから。

司会　東京支部の松岡洋さん（４回）や諫山禎一郎先輩（５回）からのアドバイスはあったのでしょうか。

石﨑　松岡君は東京支部の支部長で、ぜひ東京支部に次ぐ会を作ってほしいと言われた。

藤島　東京支部はいつからあったのでしょうか。

石﨑　東京支部の第１回は昭和29年、浜離宮で開かれました。嘉穂中学（旧制）の支部が拡大してきた中で「負けてたまるか」という気持ちがあったのです。

安藤　同年に高校２回卒の百田正子さんが早稲田大学教育学部を卒業してNHKのアナウンサーになった。地方出身者で言葉のなまりなどの問題を抱えながらも難関を突破し、数少ない女性アナウンサーになった。それをお祝いしよう、と20人くらい集まりました。それがきっかけでした。それから拡大しようということになって。

石﨑　当時、自分たちも学生でお金もなかった。そこで衆議院議員の西田隆男さんに出資者になってもらおうということで、山井静男君（４回）とか何人かでお願いに伺った。西田さんは嘉穂中学出身だったけれど、奥様が嘉穂高女出身で「嘉穂に負けないように」と言ってくださった。第２回目に早稲田弦巻町の蕎麦屋の2階で約30人ほどが集まったのですが、現職の労働大臣の奥様が来られた、とい

思い出深い
博多湾クルーズ総会

高校５回生　**越 智　秀 則**

平成10年５月23日の第５回支部総会で私が第二代の支部長に選任され就任することになりました。支部長の役目は、私には荷が重く固辞しましたが、「支部の創設に当たって支部づくりの井戸を掘る最初のツルハシを打ち込んだ人物」・安藤健一君（高校第５回卒）や同じく井戸を掘った仲間で同期の八尋弓夫君（高校第５回卒）らの強い説得に根負けして大役を引き受けることになりました。

発会式を兼ねた第１回総会には二百数十名の同窓生が集い、盛大な船出の総会でしたが、その後、回を重ねる度に出席者の数が伸び悩み、私の代の第６回総会では二百名程度と減少しました。そこで支部役員会では、総会の出席者を増やす方策、総会の運営などについて、侃々諤々の議論を重ねた記憶があります。

そうした役員会での議論を重ねていく中で、第７回総会は西暦2000年、総会も第７回目を迎えるラッキーセブンの節目の年だから、思い切った企画でやろうということで博多湾クルーズでの総会が提案され、実施に向けての検討に入りました。

当時、ベイサイドプレイスの博多湾観光汽船が安田汽船所有の帆船、明代皇帝船「鄭和」（明王朝時代の海の冒険王「鄭和」が大船団を率いて世界の国を見聞してまわって成功したということに因んでの命名と聞く）を明代の冒険王のロマンを込めて帆船、明代皇帝船「鄭和」が博多湾就航というキャッチフレーズで非定期に博多湾に就航させていました。

さて、支部総会をこの帆船をチャーターして実施しようというのですから、その準備は大変でした。当日の天気は大丈夫だろうか、何しろクルーズ船をチャーターするわけですから、出席者の数も予測しなければ、料理の注文ができません。果たして何名の出席者があるのか皆目分からない中で考え出されたのが、同窓生には大変失礼に当たると思いながらも前例のない前払い（振込）で出席の申し込みをお願いすることでした。

観光汽船側との交渉役については、当時JTB九州営業本部に勤務されていた井出俊男君（高校12回卒）が最適任だという意見で纏まり、井出君も快く引き受けてくれました。

彼を中心に高校12回卒組の田中嘉則君（事務局長）、合屋拓一君（会計）らの協力の下に準備は順調に進み、出席者の申し込みも最終的に250余名に達しました。準備万端整った前日の５月19日の夜、福岡の空は突然雷を伴う大荒れの空模様となり、予報でも明日は雨が残るとのこと、果たして明日の帆船の運行は大丈夫だろうかと心配されましたが、幸い当日は午後から快晴となり、総会は過去最高の250余名の参加者をえて大成功裏に終了しました。

私は、このクルーズ総会の最大の功労者である井出君に取材した時、彼は「総会の成功は本当に嬉しかった。ただ校長先生の来賓挨拶で“嘉飯山地区の県立高校統廃合についての現況報告”の中で、東高校の名前が残るかどうか微妙な情勢にある旨を聞かされた時は非常にショックでした。」と語ってくれたことが印象的でした。同日の総会で同じ思いをされた同窓生も沢山おられたと思いますが、幸い母校嘉穂東高校は存続し創立百周年の記念行事も終え、わが福岡支部も創設20年の歴史を刻みさらに前進しようとしています。成人式を迎えた支部の更なる発展を祈っています。

写真で見る支部20年

同窓会福岡支部発足の集い

第３回 福岡支部総会

第３回 福岡支部総会

第8回 福岡支部同窓会総会

第8回 福岡支部同窓会総会

2013
2012
2011
2010
2009
2008
2007
2006
2005
2004
2003
2002
2001
2000
1999
1998
1997
1996
1995
1994

第14回 福岡支部総会

福岡県立 嘉穂高等女学校・嘉穂東高等学校同窓会
第14回 福岡支部総会

2013
2012
2011
2010
2009
2008
2007
2006
2005
2004
2003
2002
2001
2000
1999
1998
1997
1996
1995
1994

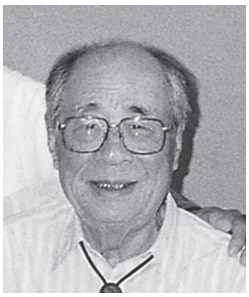
第18回 福
第18回福岡支部総会
18回福岡支部総会
第19回 福岡支部総会

福岡支部歴代役員名

	支部長	副支部長	事務局長	広報局長	会計	幹事長
第１回 第２回	石﨑　憲司	藤島　澄子	池松　英雄	——	合屋　拓一	——
第３回 第４回	石﨑　憲司	藤島　澄子	池松　英雄	——	合屋　拓一	——
第５回 第６回	越智　秀則	池松　英雄 藤島　澄子	田中　嘉則	井出　俊男 坂口　隆義	合屋　拓一	石井　清一
第７回 第８回	越智　秀則	池松　英雄 藤島　澄子	田中　嘉則	井出　俊男 坂口　隆義	合屋　拓一	——
第９回 第10回	坂口　隆義	石井　清一 角田　和之 藤島　澄子	薦野　勝利 浦田　政人	田中　嘉則	合屋　拓一	池松　英雄
第11回 第12回	坂口　隆義	石井　清一 角田　和之 藤島　澄子	浦田　政人	永末　輝幸	浦田　政人	田中　嘉則
第13回 第14回	坂口　隆義	石井　清一 角田　和之 藤島　澄子	浦田　政人	永末　輝幸	岩佐　守	田中　嘉則
第15回 第16回	角田　和之	永末　輝幸 田中　嘉則 金納　末子	岩佐　守	有働　紳輔	永尾章一郎 扇　スミ子	田代　勝
第17回 第18回	角田　和之	永末　輝幸 田中　嘉則 金納　末子	岩佐　守	山内真紀子	永尾章一郎 永末　昌子	田代　勝
第19回 第20回	角田　和之	田代　勝 永末　輝幸 山内真紀子	岩佐　守	浦田　政人	永末　昌子 野見山清豪	花岡　清利

歴代総会及び講演者名

	会　場	出席者数	日　　時	講 演 者	演　　題
第１回	国際ホール	250	平成６年10月１日	石﨑　憲司	「絆」～支部発足にあたって
第２回	国際ホール	220	平成７年９月30日	小鶴　三男	禁煙のすすめ
第３回	国際ホール	220	平成８年５月25日	——	——
第４回	国際ホール	180	平成９年５年24日	小鶴　三男	若さを保つ為に
第５回	国際ホール	190	平成10年５月23日	松本　　広	映画のお話し
第６回	国際ホール	160	平成11年５月29日	角田　和之	健やかに生きるために
第７回	博多湾クルーズ	250	平成12年５月20日	——	——
第８回	国際ホール	140	平成13年５月12日	武富　弘行	腸のお話
第９回	八　仙　閣	180	平成14年６月22日	越智　秀則	テレビの話あれこれ
第10回	八　仙　閣	170	平成15年５月24日	石﨑　憲司	どうなっているの、この世相
第11回	八　仙　閣	160	平成16年６月 5日	日高　武邦	生活習慣病のお話
第12回	八　仙　閣	160	平成17年６月25日	伊藤　嘉孝	老後の楽しみは、数学で
第13回	八　仙　閣	160	平成18年６月24日	角田　和之	抗加齢へのすすめ(アンチエイジング)
第14回	国際ホール	160	平成19年６月24日	田代　　勝	空き巣等身近な犯罪の被害に遭わない為に
第15回	国際ホール	160	平成20年６月28日	越智　秀則	伊藤伝右衛門と白蓮
第16回	国際ホール	150	平成21年６月27日	石﨑　憲司	福岡支部発足のころ
第17回	国際ホール	160	平成22年６月26日	坂口　隆義	韓国ドラマを楽しむために
第18回	国際ホール	160	平成23年６月25日	大谷テルミ	俳句との出会い
第19回	国際ホール	170	平成24年６月30日	畠山　祐子	教育の現場から
第20回	国際ホール		平成25年６月29日	花田　　正	私の教育論



私も同窓生

旧職員　**伊藤　嘉孝**（昭和22年～昭和45年在籍）

嘉穂東高校同窓会福岡支部創設20周年を心から慶賀申し上げます。

ある日、たまたま４回生の石﨑憲司君が「今度福岡支部を作ろうという事になり、準備委員会をやるので出て来ませんか」と声をかけてくれました。かねてから同窓会に福岡支部があったらいいなと思っていた私は、大喜びで早速その会に出席したことを思い出します。あれからもう20年になるのですね。それ以来、第１回支部総会から毎回欠かす事なく出席しています。回を重ねるごとに楽しくかつ盛大になり嬉しい限りです。私にとって福岡支部総会は欠かす事の出来ない大事な年中行事の一つなのです。

私が嘉穂高等女学校に奉職したのは昭和22年４月の事で、その時の学校の姿は昔のまんまのいわゆる女学校そのものでした。しかし、間もなく占領軍の指示による戦後の学制改革が始まり、学校は激しく変容していきました。校名も嘉穂女子高等学校となり、更に男女共学が施行されて嘉穂東高等学校と変わりました。かつての女学校に男子生徒が入学してくるという前代未聞の出来事でした。それに伴い新しい校章、校歌、制帽・制服の制定など正に激動の嵐の中で夢中になって過ごしたものです。女学校の伝統の中に男らしさを盛り込んだ新しい校風をどう作って行くかが大きな課題でした。

特に忘れられないのは、学区制度のもとでは、嘉穂高校もわが嘉穂東高校も全く同じレベルの学校であり、勉学でもクラブ活動でも絶対負けてはならないという事です。この意識を生徒諸君に強く求め、文字通り叱咤激励の毎日でした。生徒諸君もよく頑張ってくれました。教職員・生徒一丸となって向上の意気に燃えかつ和気あいあいとした素晴らしい校風を思い出します。

以後23年間勤続させてもらいました。新米教師であった私が、新しく生まれ出た嘉穂東高校とともに成長していった時代です。「この学校は俺が作った学校だ」という不遜な思いが胸に浮かぶ事もあります。

昔はよく「嘉穂東の卒業生で俺を知らない奴は同窓生のモグリだ」と威張っていましたが。今では私を知らない諸君が大多数になってしまいました。それでも同窓会に出る事は大きな喜びです。私は嘉穂東高校の旧職員ではなく、同窓生の一員だと思っています。

嘉穂東高等学校福岡支部の今後益々の発展を祈念するとともに、総会にも身体の許す限り、仲間の一人として参加させて頂きたいと願っています。

嘉穂高女・嘉穂東高校同窓会 福岡支部20周年を迎えて

高校5回生　安藤　健一

私は、昭和25年４月に仁保小学校・庄内中学校をへて嘉穂東高校に入学しました。

ちょうど私の高校入学時が旧制中学から新制高校に移行する時で、在住する地区により高校が決められる学区制が導入されました。２年生の男子は旧制の中学から転校し、女子は嘉穂高女の生徒内で地区別に分かれました。３年生は全員が嘉穂高女の生徒となり男子不在の学年となりました。

私はクラブ活動では、中学から経験していましたバレー部に所属し、ハーフセンターを任されました。先輩の２年生は旧制中学の伝統を引き継いでいましたので、非常に厳しく、気合いが足りないと言ってはよく殴られました。技量の無さに苦しみながら３年生秋の国体予選まで頑張りました。今となっては良き思い出です。体育系、文化系いずれも伝統ある女子の力は素晴らしく嘉穂高女の名前は全国的に有名で中でも女子体操部は日本一になりました。

私が高校３年生の時２年生と１年生の妹がいました。すぐ下の妹は息子を神戸の有名中学校に入学させましたが、若くして他界しました。（その息子は現在、北海道大学で法学部の先生をしています）１年生の妹は、朝倉街道の浮羽に嫁ぎましたが、私より先に他界いたしました。残念でなりません。その後11回生、12回生と、２人が入学し兄妹５人が嘉穂東高校でお世話になりました。

高校３年生の時、修学旅行で伊勢神宮、京都、奈良に行きました。伊勢神宮には国鉄参宮線で三重県庁・大学のある津を通過し宇治山田駅まで行き、徒歩で伊勢神宮の内宮を参拝致しました。きれいで立派な木造作りの橋を渡り、玉砂利の道を、さくさくと歩いて、五十鈴川のお手洗いの石畳み場所に着きました。五十鈴川の澄みきった水の中で、泳ぐ緋鯉と真鯉の姿を見た時、郷里筑豊の黒々とした川の水との違いを痛感いたしました。

私の祖父と５人の叔父は医者をしていました。３番目の叔父は、岐阜県大野郡宮村に勤務していました。その村は無医村で雪の多い地区でした。学生の時高山線に乗り飛騨・木曽川沿線によく遊びに行きました。

５人の叔父のうちいまだに健在の叔父は１人だけとなりました。北九州市内で現役で外科医として頑張っています。趣味は篆刻です。私の吟詠に使う印も頂戴しました。

大学受験は、理科・農業の教師をしていました父と、医師であった叔父たちの影響で、１期・国立大学は宮崎大学畜産学科・１期・２期の中間・国立三重大学農学部農業土木学科・私学では久留米大学医学部を受験しました。運良く３校とも合格しました。家庭のことや、いろいろ検討した結果、三重大学農業土木学科に入学する事にしました。

三重大学は、旧制高等農林時代から農業土木学科は全国でも少なく、高等農林から旧帝大に行かれた方々はその分野で大活躍されていました。なかでも三重、岐阜、愛知、長野、滋賀、福岡、大分には多くの先輩方がおられました。食糧難の時代であり、国は干拓、開墾事業、ダム、灌漑等、農林関係事業に力を入れ、農業土木はまさに時代に沿った分野となりました。また大学在学中には父の影響もあって、高校の教員免許を取得いたしました。

大学卒業後、建設会社に就職しました。入社後間もなく鹿児島県の国営出水干拓工事を地元の方の協力を得て完成させました。当時は300羽程度の鶴がシベリアから飛来しており、地元の人たちが千羽鶴にしたいと餌を与えておりました。今は万羽鶴の飛来です。新聞紙面で鶴の飛来の記事を見る度に、若き日に手掛けた干拓工事を思い出します。

1970年には大阪万博（夢の池）や関西電力の大型変電所工事を施工し、その後本社勤務となりました。列島改造の時であり、全国1都1道2府43県に足を踏み入れ、各地の工事を見ることが出来た事は、私の貴重な財産となりました。

東日本大震災で被害に遭った東北地方の海岸線、福島原発の基地等の工事も施工しましたが、今回の災害で壊滅された姿を見てあらためて自然の怖さを強く感じました。

横浜支店では港湾、再開発事業をてがけ、大阪支店勤務では大阪国際空港の人工島工事を受注し、1990年に九州支店勤務になりました。母が元気な時に郷里に帰れたことが最高の喜びでした。

その当時、福岡天神にあります西日本新聞本社の編集局長は高校４回生の石﨑憲司先輩がされていました。各分野のエリート５人の局次長に囲まれながら“飛ぶ鳥を落とす力、山を抜く姿”で、業務遂行

されている仕事を見せていただきました。また同じく高校４回生の小鶴三男先輩は、国立がんセンターの副院長で頑張られていました。

先輩方から嘉穂東高校同窓会の福岡支部が無いので支部を創設したい旨の相談を受けました。東京支部長・松岡洋さんと事務局長諫山禎一郎さんのご意見、高女の先輩方や兄妹５人の同期の方々のご意見を聞き無事に福岡支部を創設することが出来ました。福岡支部創設には多くの方々にお世話になりました。記憶が曖昧ですが、同窓会福岡支部を立ち上げるにあたりお世話になった方々を紹介いたします。

高女 31回生	角田　ハヤ子（祝舞 高女世話人）
３回生	藤島　澄子　（現世話人）
５回生	越智　秀則　（2代目支部長） 麻生　喜久男 大久保　繁 八尋　弓夫　（現世話人） 藤村　須美子
６回生	石井　清一 田中　広子
７回生	秋吉　宏柾　（現世話人） 許斐　廣重
８回生	永末　輝幸　（現副支部長） 中村　征子
10回生	角田　和之　（現福岡支部長）
11回生	池松　英雄　（元庄内中学生徒会長） 榊　　日出男 花村　忠次郎
12回生	田中　嘉則　（現副支部長） 井出　俊男　（元庄内中学生徒会長） 合屋　拓一
13回生	坂口　隆義　（3代目支部長、元西日本新聞社広告社社長） 金納　末子　（元副支部長）
14回生	薦野　勝利
15回生	田代　勝　　（現副支部長）
16回生	長尾　章一郎 大根田　彬 山本　勝国
17回生	友野　博巳
18回生	麻生　修平 高見　しず代
19回生	岩佐　守　　（現事務局長） 浦田　政人　（同窓会その他行事担当局長） 山内　真紀子 （嘉穂東高校同窓会担当教員より世話人に推薦　現副支部長、鳥飼神社）

2012年12月号の文藝春秋の中で田中恒清さんが“この瞬間を大切にする「神の道」”のなかで修学旅行で初めて見た時の伊勢神宮の弐年遷宮について述べられています。（先述しました今は亡き3番目の叔父が勤務していました飛騨・木曽川沿線から遷宮の建物の木材は運搬されています。）弐年遷宮は、1300年もの間、20年に１度というサイクルでずっと続けられています。20年サイクルという根拠について、お社の茅葺屋根が朽ちて崩れていくのが大体20年という説と、お伊勢さんの建物は、高床の米蔵様式でお米を干して貯蔵してきていたのでその貯蔵の限界が20年という説とについて述べられています。

継承の意味合いを兼ねるのに最も適したサイクルが20年であると強調されています。

伊勢神宮は今年が弐年遷宮を迎える年です。

嘉穂東高校同窓会福岡支部も今年20年を迎えます。皆様の協力で継承されると思います。

同じ年に迎える遷宮とともに福岡支部も新しい考えを入れながら繋いでゆくようにしてはいかがでしょうか。

お世話される方々は大変でしょうがよろしくお願いいたします。

絆

Kizuna

今までも、そしてこれからも